

応援の準備 その4

「左利きのキャッチャーミット」が車の中に乗っている。昔、ブルペン捕手がいないときに、自分でピッチャーを調整しなければならないときのために、ミズノプロで作った特製のキャッチャーミットである。

長年、車の中に入れておいた野球バックを開けると、監督用スパイクや、磐城高校の練習用Tシャツやノック用グローブが入っており、その中にミズノプロのグラブ用の布袋に左利き用のキャッチャーミットが入っているのだ。

私は、もともと左利きであったのだが、子どものころに親がいろいろな心配をして、箸を持つ手と書を書く手を右に直したのだ。したがって、投げるも打つも飛ぶのも皆左利きなのである。ノックも左利きであり、その点は木村監督と大場部長と同じである。

今、ノックバットをもっても、外野にボールが飛ぶかおぼつかない。20代のころは、優に球場の外野フェンスを越えることができたが、磐城高校の部長時代ごろから、ノックは若いものに譲っていたので、飛び切り特別な最後の仕上げノックとか以外は、自分では打たなくなっていた。

田村高校の教え子たちは、朝から晩までノックを受けていたので、ノックをしない私など考えも及ばないことだろう。内野ノックを100本ずつ打って、外野ノックを20周打って、そのあと、アメリカンノックというノック形式で、レフトの定位置から走りださせてセンターあたりにゴロを打ち、取った後投げてライトに走るといふノックなのだが、これを20本ずつやると大体はもう勘弁という感じになる。

こんなノックを毎日毎日、朝から2セット繰り返されるのだからたまらなかつたろう。あのころはあたりまえにやっていたが、今の子どもたちには到底考えもつかないノックであった。

ノックバットは、ひと月に1本ずつ買い替えていた。グローブは、2か月は持ったろうか。ボールは、一つ一つ大事に使っていた。練習が始まるときの個数が終わってから足りないのがわかると見つかるまで練習が終わらなかった。

水を飲むなという理不尽な練習が続いていたので、1年生は朝早くグラウンドにやってきては、様々なところの茂みにペットボトルを隠して、ボールを探すふりをして水を飲むということもあった。

冬の練習は、10キロランニングを一日に2本ずつやっていた。よくやっていたと今では思う。自分でも走り、同じ練習量についていけた。

左用キャッチャーミットをきちんと磨いて、バックの中に忍ばせて甲子園に行こうかなと思う。

ミットにも甲子園の風を当ててみたい。木村監督も後藤顧問もキャッチャーだったので、自分のグラブをもっていこう。